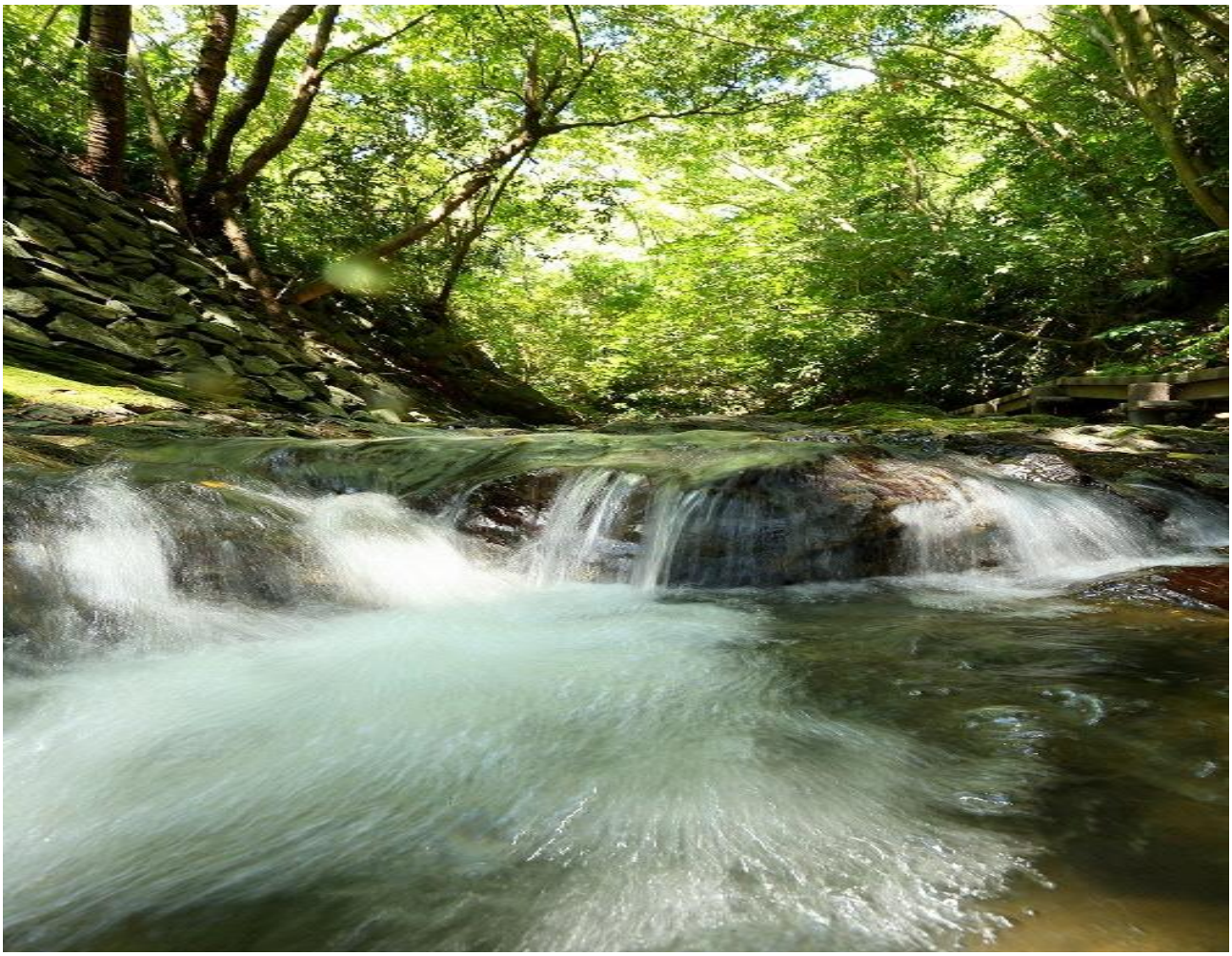
横須賀危険物安全協会

防災よこすか

第 71 号



写真提供　横須賀写真ライブラリ

「 前田川遊歩道 」

前田川は、大楠山のきれいな沢の水や湧き水などが集まってできた清流で、自然環境の残された数少ない河川のひとつです。遊歩道の中間点からは、大楠山ハイキングコースへと行くことができます。

会長あいさつ

横須賀危険物安全協会

会 長　八巻　敏博

横須賀危険物安全協会会員の皆様方におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

また、会員の皆様方には、平素から当協会の事業推進にご支援とご協力をいただいておりますことに、厚く御礼申し上げます。

私は、去る平成 30 年５月 14 日に開催されました定例総会において、皆様からご推挙をいただき、会長に就任いたしました 八巻 敏博 でございます。

微力ではございますが、当協会の目的に沿って、誠心誠意努力してまいる所存でございますので、ご支援とご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

さて、30 年間続いた平成という時代が残り数か月で終わりを迎えようとしていますが、この 30 年間の変化について、少しだけ振り返ってみたいと思います。

平成という時代の中で最も技術革新がなされたもの、それは『通信技術』ではないでしょうか。平成初期の身近な通信手段であった電話やＦＡＸ、ポケベルから、着々と進化を続け、現在はタブレットＰＣやスマートフォンなどの普及により、膨大な量の電子データや画像・動画などを誰でも瞬時にやりとりできるようになりました。これらの技術はインターネットの普及・発達によりもたらされたものですが、このインターネットは世界中の人々といつでも情報交換ができるという画期的なものでした。

しかし、これらが私たちに与えたものは様々な利便性の向上などのメリットだけではありません。インターネット上に広がっている情報は不確かなものも多くあり、誤った情報が拡散されてしまうことや、ネットバンキングを利用してお金を騙し取る詐欺事件、出会い系サイトを介して未成年者が被害者となるケースの事件なども発生しています。使用する人によって便利なものにもなるが、危険なものにもなる。これは私たちが取り扱う危険物も同様なのではないでしょうか。

今後は危険物を取り扱う作業においても、技術革新によって今以上に自動化・ロボット化が進んでいくでしょう。そのような状況の中でこそ、事故防止に必要なことは「人材教育」だと私は思います。どれだけの作業を機械任せにしたとしても、最終的にそれらを保守・管理するのは人間であるからです。

当協会としましても、これからの新しい時代を担っていくべき人材を育成し、安心して暮らせるまちづくりに貢献するため、様々な事業に挑戦していく所存です。これからも、どうか皆様のご支援、ご協力を賜りますよう改めてお願い申し上げます。

結びに、本年が災害のない平和な年でありますとともに、皆様方のますますのご健勝とご多幸を心から祈念いたしまして、ご挨拶とさせていただきます。

第５３回定例総会開催

去る平成 30 年５月 14 日（月）、よこすか平安閣において、第 53 回定例総会が開催されました。

第１号議案の平成 29 年度事業経過報告、第２号議案の平成 29 年度収支決算報告、及び会計監査について審議・報告が行われ、原案のとおり承認されました。続いて第３号議案の役員の改選について審議が行われ、岡会長に代わって八巻興業㈱ 八巻様が新会長に選任されたほか、以下のとおり新たに 12 名の方々が役員として選任されました。

新 副会長	湘南菱油㈱	大庭 大 様
新 副会長	日産自動車㈱追浜工場	田代 亘 様
新 常任幹事	㈲津久井浜商事	髙橋 拓海 様
新 常任幹事	㈱ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ・ﾆｭｰｸﾘｱ・ﾌｭｴﾙ・ｼﾞｬﾊﾟﾝ	蓮池 充 様
新 常任幹事	池内精工㈱	丸岡 敬典 様
新 幹事	㈱ｺﾝﾁｪﾙﾄ横須賀ﾌﾟﾗｲﾑ	富田 実 様
新 幹事	学校法人神奈川歯科大学	菅原 光則 様
新 幹事	カルソニックカンセイ㈱	齋賀 貴之 様
新 幹事	㈱東京ガス横須賀パワー	川瀬 崇 様
新 幹事	㈱下浦石油	髙橋 哲也 様
新 幹事	住友重機械工業㈱横須賀製造所 浦賀工場	相原 良則 様
新 会計監査	㈱オカムラ 追浜事業所	小尾 康雄 様

その後、第４号議案の平成 30 年度事業計画、及び第５号議案の平成 30 年度収支予算について審議が行われ、原案のとおり承認されました。最後は議長の閉会の言葉で無事に終了しました。

総会後には例年通り懇親会が行われ、和やかなうちに終了いたしました。ご多忙のところ大変多くの方にご参加いただき、誠にありがとうございました。

危険物安全週間

６月３日から６月９日まで、全国一斉に「危険物安全週間」が実施されました。

当協会では、各会員事業所が保安教育や自主点検、地震・津波対策の確認などを実施し、危険物保安活動に取り組みました。

また、東邦化学工業㈱追浜工場では危険物を起因とする火災を想定した消防訓練が実施されました。

消 防 庁 長 官 表 彰

平成30年６月４日（月）東京都千代田区の「ルポール麹町」において開催されました総務省消防庁主催「危険物安全大会」の席上において、当協会の住友重機械工業株式会社横須賀製造所　様が、長年に亘って危険物の自主保安体制の確立を推進されてきた功績が称えられ、消防庁長官から表彰されました。

住友重機械工業株式会社　横須賀製造所
所長　小平　一穂　様

関東甲信越地区危険物安全協会連合会会長表彰及び神奈川県危険物安全協会連合会会長表彰

去る平成30年６月19日（火）、横浜市中区の「かながわ労働プラザ」で開催されました一般社団法人神奈川県危険物安全協会連合会の表彰式において、当協会の会員の皆様が一般社団法人神奈川県危険物安全協会連合会会長から次のとおり表彰されました。

関東甲信越地区危険物安全協会連合会会長表彰

諸設備の充実と安全管理功労

★東京ファインケミカル株式会社
　横須賀工場　様

神奈川県危険物安全協会連合会会長表彰

危険物防災思想の普及と災害防止功労

★日産自動車株式会社　追浜工場
　小林　啓男　様

優　良　危　険　物　事　業　所

★社会福祉法人日本医療伝道会 衣笠病院　様
★株式会社柳田エンジニアリング　様

優　良　事　業　所

★学校法人横須賀学院　様
★株式会社京急ショッピングセンター
　ウィング久里浜SC事務所　様

左から
㈱京急ショッピングセンター 翠川様
東京ファインケミカル㈱ 糸澤様
㈱柳田エンジニアリング 柳田様
日産自動車㈱ 小林様
衣笠病院 柳井様
横須賀学院 田中様、井出様

危険物保安セミナー

７月５日（木）、横須賀市立勤労福祉会館（ヴェルクよこすか）にて、昨年度に続き危険物保安セミナーを開催しました。当日は消防局予防課危険物係の職員の方々に講師を依頼し、約２時間の講習が行われました。

昨年度同様に、セミナーには三浦危険物安全協会の会員事業所様にも参加を呼び掛け、三浦危険物安全協会から７名、横須賀危険物安全協会から 47 名、合計 54 名が受講されました。

なお、当日の講習内容は以下のとおりです。

① 地下貯蔵タンクの構造及び事故事例について
② 地下貯蔵タンクの漏れの点検等について
③ 危険物の貯蔵・取扱いにおける質疑応答

幼児防火教室

この活動は、地域防火広報の一環として消防職員や女性消防団員が地域の幼稚園・保育園を訪問し、園児に防火紙芝居や防火教育用ＤＶＤなどにより防火教育を行うものです。

当協会では、園児に折り紙や消しゴム、シャボン玉等の記念品を贈り、この活動を支援しています。

地 域 貢 献 事 業

平成 30 年度の地域貢献事業としまして、４月 26 日（木）、社会復帰のため危険物取扱者の資格取得を目指す久里浜少年院の少年たちに、試験対策テキスト 10 冊を寄贈しました。

また、８月 22 日（水）には横須賀市社会福祉協議会を通じて、平成 30 年７月豪雨災害に対する義援金を寄付しました。

テキスト寄贈式
（左：岡前会長、右：長島院長）

義援金寄贈式
（左：八巻会長、右：福本事務局長）

救　命　講　習

平成 30 年９月 21 日（金）と 12 月３日（月）の２回にわたり、消防局庁舎３階会議室にて普通救命講習会を開催しました。当講習会は地域貢献事業の一環であり、目の前で突然人が倒れた場合、尊い命を救うため、心肺蘇生法、ＡＥＤの使用方法等を習得することを目的としています。当日は各会員事業所から第１回 31 名、第２回 26 名が参加され、講師である消防局職員及び応急手当普及員の方々から指導を受け、全員が熱心に取り組み、講習会終了後には修了証が交付されました。

視 察 研 修 記

一般財団法人電力中央研究所
横須賀運営センター　島畑　宣志

立春の候、会員の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

この度、横須賀危険物安全協会の平成30年度視察研修記を書かせていただきます。毎年、様々な施設の見学を通じて、危険物に関する理解と安全意識を向上し、会員同士の親睦を深める研修会を企画していただきまして私自身も非常に有意義な時間を過ごさせていただいております。

さて、昨年10月16日は、午前中、移動中のバスの中で事務局の佐藤さんより危険物に係る事故についてわかりやすいご講義をいただいた後、川崎市浮島町のＪＸＴＧエネルギー川崎製油所を見学しました。川崎製油所は、東燃化学川崎製造所と組織統合し、広大な敷地に石油精製と石油化学の巨大なプラントを構え、効率的な生産体制を実現しています。そのスケールに驚くとともに、これほどの施設を環境・省エネにも配慮しつつ、安全に運転・維持管理することは、従業員の方々の大変なご尽力あってのことと非常に感心させられました。午後は、東京お台場青海地区の東京税関本関を訪れました。実際に摘発した密輸の手口や偽ブランド品などの展示もあり、なかなかなじみのない税関の業務について知る非常に良い機会となりました。施設見学の後は、恒例の横浜中華街における懇親会が開催され、研修参加者の方々とより一層懇親を深めることができました。

末筆ながら、本視察研修を企画・実行していただきました協会事務局の皆様に感謝申し上げるとともに、協会会員の皆様と危険物安全協会のますますのご発展を祈念申し上げます。

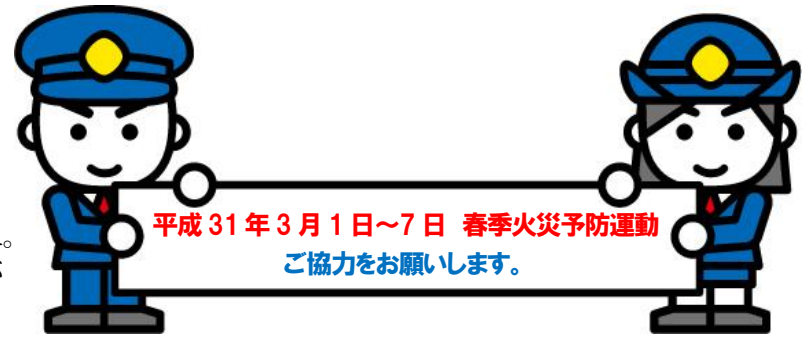
平成 30 年秋季火災予防運動

平成 30 年 11 月 9 日から 15 日まで、全国一斉に「秋季火災予防運動」が実施されました。

火災予防運動におきましては、会員事業所皆様にはポスターの掲示等啓蒙活動にご協力くださいまして感謝申し上げます。

また、期間中には横須賀市内の各駅において、役員の方々にご協力いただき、駅前街頭広報を実施いたしました。婦人防火クラブの方々の参加もあり、駅を利用される方などに住宅火災警報器広報用ティッシュやパンフレット等を配布し、多くの方に防火広報をすることができました。

ご協力いただいた皆様、ご多忙の中誠にありがとうございました。



平成 31 年横須賀市消防出初式

去る１月６日（日）、うみかぜ公園（横須賀市平成町３－23）で行われた「平成 31 年横須賀市消防出初式」式典において、永年に亘り危険物関係法令を遵守し、危険物施設の安全管理と防火思想の普及に努め、火災予防に尽力された功績により、当協会員から次の方々が表彰されました。

★消防局長表彰　優良危険物取扱事業所

三浦学苑高等学校　様

★横須賀危険物安全協会長表彰

・優良危険物取扱者

湘南菱油株式会社　エコ久里浜給油所
鈴木　真也　様
京浜急行バス株式会社　堀内営業所
鈴木　淳一　様
東邦化学工業株式会社　追浜工場
高橋　彰　　様
生化学工業株式会社　久里浜工場
塚越　輝之　様
有限会社あさや商店
髙橋　慶一　様
有限会社井出石油
田中　桂介　様
一般財団法人電力中央研究所
横須賀運営センター
大友　直子　様

・功労役員

安藤　利行　様
株式会社オカムラ追浜事業所
和田　吉一　様

記念品配布所を開設

出初式会場のふれあい広場において、当協会の記念品配布所の開設し、風船約 450 個を来場された方々に配布して火災予防を呼びかけました。

ご協力いただいた皆様、ご多忙の中、誠にありがとうございました。

協会員だより

株式会社下浦石油

代表取締役　髙橋　哲也

会員の皆様方におかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

当社は昭和44年、野比（国道134号線沿い）に開業し、お陰様で創立50 周年を迎えることが出来ました。開業当初は、日本石油（現在はＪＸＴＧエネルギー株式会社）の元売りマークを掲げ、昭和53年には長井にも開業いたしました。

さて、ガソリンスタンド数は20年前には6万件以上ありましたが、平成30年3月末、資源エネルギー庁から発表された数は約3万件であり年々その数を減らしています。この減少については「自動車保有台数の減少」「走行車両の燃費向上」「若者の車離れ」「高齢者の免許返納の増加」などが挙げられております。

ガソリンスタンドの運営方法には、従来のフルサービススタイルに加え、平成10年に消防法改正により、セルフサービスのガソリンスタンドが存在するようになりました。

開業時の野比ＳＳ

長井ＳＳ

当社は、これまでの運営の中で、平成14年に野比店の取引先をＪＸＴＧエネルギー株式会社からキグナス石油株式会社に変更し、市内では珍しく、2社の元売りマークを掲げております。長井店だけは、平成21年にセルフサービスに変更しましたが、従来のフルサービスに近い営業を継続し、灯油や軽油の配達をミニローリーにて行っております。

東日本大震災時には、一時的避難所への燃料供給等により、災害時エネルギー供給の最後の砦としての使命を果たすことが出来ました。これからも、この「石油の力」をいかし、発展する企業として続けてまいりたいと思います。

最後に50年もの間、野比と長井の地で運営を継続できたのも、ひとえに消防局によるご指導、ご鞭撻、それに地域の皆様のご理解、ご支援の賜物と存じ深く感謝申しあげます。

協会員だより

株式会社オカムラ　追浜事業所

人事総務課　小尾　康雄

追浜事業所全景

1945 年、弊社は航空機製造の技術者を中心に、設立の主旨に賛同した人たちが資金を持ち寄り創業しました。家具の生産が軌道に乗ると、再び「動く製品」の開発に情熱を傾け、国内初のトルクコンバータ（流体変速機）の開発に成功。そして、このトルクコンバータを搭載した国内初の FF オートマチック車「ミカサ」が 1957 年、第 4 回全日本モーターショーでデビューしました。

その後、弊社は家具の製造に専念するためミカサの生産を中止しました。しかし、ものづくりへの情熱とこだわり、そして「一流の製品をつくりたい」という強い思いは、当時のまま、現在の製品へと受け継がれています。

【沿革】（一部）

- 1945 年　横浜市磯子区岡村町に岡村製作所誕生
- 1950 年　トルクコンバータ生産開始
- 1951 年　スチールデスク・イス生産開始
- 1957 年　「ミカサ」自動車開発
- 1958 年　追浜工場竣工
- 2002 年　エルゴノミックメッシュチェア「コンテッサ」発売、海外輸出開始
- 2009 年　追浜事業所新工場棟稼動

そして弊社は、2018 年 4 月 1 日に社名を「株式会社オカムラ」に変更いたしました。これを機に、「豊かな発想と確かな品質で、人が集う環境づくりを通して、社会に貢献する」をオカムラのミッションとして明文化し、「人が集う環境をつくる」ことに精進してまいります。

危険物施設としては、貯蔵及び取扱っている施設を有しています。この危険物を取扱う職場での危険物取扱者資格の取得者数拡大及び、危険物取扱免状取得者に対し 3 年毎の保安講習受講フォローを行っています。また取扱い職場の従業員への保安教育や訓練を定期的に実施し、事故防止に努めています。

今後も横須賀市消防局からご指導ご鞭撻をいただきながら、防火防災活動により一層努めてまいります。　最後に、協会の今後のご発展と会員の皆様のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

製品のイス

協会員だより

有限会社セイキ印刷

代表取締役　小菅　信行

製本機

危険物安全協会会員の皆様におかれましては益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。

平素は格別のご厚誼を賜り心から御礼申し上げます。

弊社は、大津町にて先代の社長が創業以来 40 年以上にわたり三浦半島地区を中心とし、個人、法人を問わず多くのお客様からご愛顧いただいてまいりました。多くの皆様からいただいた温かいご支援とご愛顧により、ここまで成長できましたことを心より感謝申し上げます。

弊社の経営理念は「他社の同業者とは一線を画し、多様化するお客様からのニーズにできる限り理解し、一緒に考え、常に先回りをしてご提案することで、お客様の課題にていねいに寄り添い、的確にお応えする」の先代からの精神を現在も受け継ぎ歩ませていただいております。

事務所風景

印刷物は、ひとつひとつがオーダーメイドであります。何よりも顧客との信頼関係が不可欠です。お客様そして社会と互いにその価値を高め合うために情報サービス業のプロとしての適確な提案ができること。これこそが私たちに課せられたものであり目指すべく指針と考えます。弊社は、これからも新たな顧客価値を提供するために邁進してまいります。

防　災　講　演　会

平成 31 年１月 22 日(火)、第２回役員会の後、一般社団法人オープンジャパン　萬代（ばんだい）　好伸（よしのぶ）様を招聘し、防災講演会を開催しました。

萬代様は、宮城県石巻市の在住で、東日本大震災を石巻市で経験されました。被災地では、自ら被災しながらも、多くの方々のボランティア活動を目にし、重機オペレーターとしての技術を駆使してガレキ撤去作業に奔走。震災後は、多くの方々に助けてもらったお礼の気持ちを込め、繰り返される台風による水害の被災地や、ハリケーン被害を受けたニューヨーク、２年前の熊本地震、昨年大きく被災した西日本豪雨災害、北海道地震の現場にも駆け付け、現在も災害支援活動に従事されています。

当日は、「震災からの教訓と自然災害への備え」というテーマで、東日本大震災による宮城県石巻市での体験談や現在に至るまでの想い等をお話しいただき、多くの会員が目に涙を浮かべながら聴講しました。以下にご講演の内容を一部紹介します。

皆様、改めまして、東日本大震災の際は温かいご支援をいただき本当にありがとうございます。今の映像を見ていただいて、東日本大震災がどんな大規模でかつ世界中に驚きを発した災害だったのかお分かりになっていただいたかと思います。

東日本大震災から早８年の年月が流れようとしております。改めて皆様方には大災害をしっかりと思い出していただき、今後この横須賀にも襲い迫ってくるかもしれない津波というものをしっかりと意識し、そしてその災害からしっかりと身を守るということをしていただけたらなと思う次第であります。

まず皆さんにお話しさせていただくことは東日本大震災から得た教訓です。

１つ目の教訓は、「認識」、「知識」、「意識」をもって災害に対応するということです。

災害というものは必ず起こるという「認識」に立ち、そしてその災害からどう自分の身を守るのか、「知識」として得て、そして今、突然災害が発生したらどうするのか、どう身を守るのか常に「意識」をする。ということです。

そして２つ目は、助け合うこと、支え合うこと、励まし合うことです。

先ほどの映像にもございましたけども発災直後から、多くの方が災害支援で東北の方へ入ってくださいました。この日本のみならず世界中の方々です。困っている人がいるならばそれを支えてあげる、それが一刻も早く被災者の方々が自立して立ち上がることにつながる。自分はそう思っています。自分の目の前で多くのボランティアさんを目の当たりにしました。そのボランティアの皆さまを見て、地元の被災された皆さんが時を追うごとに元気になっていく姿を目の当たりにします。自分が東日本大震災以降各被災地に赴くのは、やはり必ず立ち上がるということができるということを、いち早く被災された皆さんにお伝えしたいなと、ついでに、自分が得意とする分野、重機を使ってがれきの撤去、流れ出した土砂の撤去、そうした活動をさせていただき、立ち上がることができるから大丈夫ということを被災者に伝えたく赴いているのでございます。

その東日本大震災、やはり当日のことをここで皆さんにお知らせしたいと思います。

2011年３月11日、14時46分我々太平洋沿岸に住む者にとってどん底に突き落とされる東日本大震災が発生してしまいました。

当時自分は海辺から２㎞ほど離れた石巻市の新館地区というところで、紙の原料となるチップを製造するプラントで重機を使いながら仕事をしていました。突然大きな揺れを感じ、すぐさま広い場所に身を置いて建物が倒壊しても大丈夫なところに避難をしました。周りを見渡すと地震の波というものを感じました。東北の遠くの方から地面がうねってくる、まるで海の波のように一枚一枚がうねってくるのが見てとれる。２日前にも同じような地震がありましたが、その３月11日のうねりは５分以上揺れ続けておりました。一度強くなっては収まり、また強く揺れては、また収まり、また強く揺れる。震度６弱の揺れに３回襲われました。すぐさま石巻の防災無線は大津波警報を発令しておりました。「大津波が押し寄せる恐れがあるので大至急高台に避難せよ。」と、けたたましいサイレンとともに防災無線はそれを報じておりました。すぐさま会社から「家や家族が心配だろうから帰れ。」帰宅命令が出ました。自分は約7～8㎞ほどはなれた湊地区というところから車で通勤しておりました。途中、石巻市内を一望できる場所としても知られている日和山という小高い丘の近くを、車のラジオで地震の情報を聞きながら揺れながら走っておりました。そうすると15時６分女川で第１波を把捉、波の高さは50㎝、最大で予想される波高は６ｍに達するでしょうというラジオの１報が入りました。しっかりと第１波を観測したうえでの報告でしょうから第１波が到達したのはそれよりも前だと思います。女川で６ｍだったら石巻地方はせいぜい３分の１程度の２ｍぐらいだろうと自分は予測しました。その根拠は先人の方々が石巻は女川の３分の１程度の被害しかないんだと言っていた。根拠はただそれだけです。現実は全くそうではありませんでした。津波は、小高い日和山を何の躊躇もなく超えて、下って、旧北上川というところに差し掛かったところ、突然川の水がせりあがるという状況を目の当たりにしました。近くに立っていたビルの２階の窓付近まで一気に盛り上がりました。それが自分の運転する車の方に向かってきたのでございます。自分は、とっさに車のギアをバックに入れました。そして、後ろを振り向いて後続車がいないことを知るや否や思いっきりアクセルを踏んで、下ってきた日和山をバックで登っていったのです。今こうして皆さまの前に立ってお話ししていることは奇跡なんです。たまたまあの時は車のギアがバックに入った。たまたまあの時は後ろに車がいなかった。偶然です。奇跡です。いまだにあの日経験した津波、まるで黒い壁と化して襲い掛かってくる津波。夢に見ます。現実はこうして助かっておりますが、夢の中では車のギアがバックに入らず慌てふためいているところを黒い壁が襲い掛かってくる。あるいは後ろに後続車が居て、にっちもさっちもいかなくなり、やはり黒い壁に飲まれる夢を見ます。もうその時点でアッと思い目を覚ましますけど全身にびっしょり脂汗をかいている状態です。残念ながらこの悪夢は一生自分が見続けなければならないトラウマになっています。しかし、自分は忘れようとは思いません。いかなる時も思い出してあの恐怖というものをしっかりと、未来の人たちに伝えていかなければいけないなと思っています。

やっとの思いで車を安全な場所に置き、日和山の頂上に走ってたどり着いたとき、自分の故郷がとんでもないことになっている光景に思わず膝から崩れ落ちてしまいました。「なんだこれは・・・」至るところから上がる火の手、そして大きな黒い壁が何枚も何枚も海の果てから迫ってくる光景。壊滅となった南浜地区では、その街で使われておったプロパンガスのボンベが津波で集約され、何らかの原因で引火し、日和山のふもとで小規模な爆発を繰り返しておりました。至るところから火の手が上がり、とても考えられない黒い煙を発しておりました。日本製紙石巻工場、ここに目を向けると化学薬品庫が大爆発。とてつもない火柱を挙げておりました。信じられない光景です。造船所からは大きな船が流出して自分が育った湊地区を大暴れするんです。大きな船が右往左往しておりました。その光景を見て自分は、「ああ、80才近い両親、もう生きておらんだろう。この石巻で生きておるのはこの日和山に逃れた方々しかおらんだろう。」そう思いました。あの日その日和山地区には、いろんな音が錯綜しておりました。至るところから上がる火の手の燃え盛る音、プロパンガスが爆発を繰り返している音、日本製紙の化学薬品の大爆発、何枚も何枚も襲い掛かってくる黒い壁の音、容赦なく引き波として町の中からいろんなものを飲み込んで流していく引き波の音、しかし自分にはそのいずれよりもはっきりと聞こえた音があるんです。壊滅した南浜地区の方々が自宅で逃げ場を失い、２階の屋根に乗りそのまま家ごと引き波に流されて沖へ沖へと引き込まれていくその時、大きく手を振って「おーい助けてくれー」と叫んでいる声。これは一大事と思って、水辺に下がってみましたけど、とてもとてもどうすることもできません。するとわずか数m前を若い女性の方々が多く流されていました。壊れた家の梁や柱につかまりながら流されていました。その中に一人の若い女性、自分と目と目が合いました。「助けて」と言わんばかり

に目にいっぱいの涙を流しながら彼女は流れていきました。その方々が流されているのを待ち受けているのはあの黒い壁。その方々が波間に消えていくところまでしっかりと自分は見ていました。あの日大きく声をあげて「助けて」と叫んだ声、この耳にしっかりと覚えています。生きたくても生きることができなかったけれども、最後まで頑張ってガレキにつかまりながら目にいっぱいの涙を浮かべて流されていった若い女性の最後の涙、この目でしっかり見ています。やっとの思いで津波から這い上がった方々にも数多く会いました。しかしながら後に低体温症のうちに命を落とされたと聞いています。津波から這い上がった唇を紫色に染めて「寒い・・寒い・・」と言いながら震えておりました。自分ではどうすることもできないそのもどかしさ、あの日はそんな方々に「死んでしまえ」と「凍えて死んでしまえ」と言わんばかりに空からは真っ白な雪が舞い降りておりました。「寒い・・寒い・・」と震えている方々にあの日は容赦なく雪が降り積もって真っ白く染めていったのでございます。それを見て自分は思わず天を仰ぎ大声で叫んでしまいました。「なんだよ神様、何もここまですることないじゃないか、なんだよこれは・・・」、自分にはどうすることもできない無力さ。それを感じたのでございます。

自分が日和山に逃れる時、偶然にも自分の子供たちとメールのやり取りをすることができました。一刻も早く子供たちが避難している湊小学校へ行こうと思い、歩けば15分か20分程度の距離なんですけども、橋の上に横になった船が邪魔で、歩くのに4時間もかかりながら湊小学校にたどり着きました。大きな船が右往左往しておった湊地区、生きておる人は少ないであろうと思っておりましたが、湊小学校には満員電車のようなぎゅうぎゅう詰めの人が避難しておりました。子供たちの姿を探すのにも一苦労でした。そんな中、自分の背中を見て後ろから抱き付いてきたのは長女でした。実際に会って本当に安心しました。「次男はどうしている」と聞いたら、「自衛隊の方々が支援物資を地上に降下しているからその仕分けをしている。」と答えました。後にその次男は「自衛隊すごい、自衛隊格好いい、お父さん、俺は必ず自衛隊に行くから。」そう次男は言い切りました。現実に自衛隊の方向に進み、今はしっかりと防衛大に通っております。湊地区の方々が生きているのであれば、もしかしたらうちの両親も生きているのではないか。そう思ったら居ても立ってもいられませんでした。子供たちを説得して自分は両親が避難しているであろう海に近い湊中学校に行ってみようと決心しました。すると生き残っておった同級生の一人が「湊中学校付近は胸まで水が来るぞもう少し水が引いてから行った方がいい。」と教えてくれました。しかし、もしかしたら生きておるのではないかと思ったら、どうしても両親の生存を、安否を確認したく、ずぶ濡れ覚悟で中学校へ向かったのであります。自分が生まれ育った町、どこに道路があるのか、至るところガレキの海と化した湊地区を、できるだけ濡れないように進んでおりましたけど、やはり水は膝から太もも、太ももから腰、そして最後は胸まで来ました。至るところ、ガレキの中から手や足が・・・見てみぬふりです・・・。自分ではどうするともできません。心の中で手を合わせながら「ごめんね。」そう言いながらその場を後にするしかありませんでした。湊中学校付近は胸まで水が来ました。そんな中、人影らしきものが自分の前に流れてきました。パンパンに膨れ上がったその亡骸はうつ伏せの状態でした。生きておったら苦しいだろうなと思って仰向けに直しました。すると、きっとこの世に未練があったと思うのです。しっかりと目を見開いている。閉ざそうと思っても死後硬直で閉じんのですよ・・・。

上空では数羽のカラスが旋回しておりました。カラスにいたずらされないよう、水の流れのないところに寄せて毛布や布団をかけてやればよいのですが、そんなものはありません。壊れた家の屋根からトタンをはがしてかけるしかありませんでした。「ごめんね」と言いながら歩みを進めます。するともう一体、その亡骸は背中にランドセルを背負っています。なぜこの子がなぜこんな目に・・・。

大声で空を見上げ、わめきながら湊中学校に進んでいきました。湊中学校ではもう一度大きな津波が来たら建物がもたないので、多くの自衛隊さん、消防の方々、警察の方々が避難している方々をヘリで移動させていました。自衛隊の方に「あそこと、ここと、ここと、ここと、ここにご遺体があります。早めに収容してあげてください。」そう話したところ突然その隊員の方が泣き出して、「すみません。今は生きている人が先ですから。」そう自分に泣きながら謝ってきたのです・・・・・(以下略)

平成 30 年度危険物安全週間推進標語

この一球　届け無事故へ　みんなの願い

平成 30 年度全国統一防火標語

忘れてない？サイフにスマホに火の確認

平成 30 年中の横須賀市内における火災・救急出場件数等

（横須賀市消防局　平成 30 年消防活動速報より）

火災件数					
平成 30 年中			平成 29 年中		
順位	原因	件数	順位	原因	件数
1	電　気　関　係	26	1	放火（放火の疑い含む）	35
2	各　種　こ　ん　ろ	11	2	電　気　関　係	22
3	た　ば　こ	10	3	各　種　こ　ん　ろ	14
合計（その他の原因含む）		87	合計（その他の原因含む）		113

火災による死傷者数		
	H30	H29
死者	2 人	5 人
負傷者	20 人	23 人
合計	22 人	28 人

救急出場件数		
	H30	H29
急病	17,332	16,439
一般負傷	3,915	3,943
交通事故	1,270	1,272
労働災害	147	114
火災	71	71
その他	2,042	2,055
合計	24,777	23,894

【火災・救急 緊急事態宣言！】

本年に入り、火災発生件数が３２件（2月 12 日現在）で昨年同時期と比較すると 13 件の増加と急増しており、救急出場件数も過去に例を見ないペースで増加しています。

会員の皆様におかれましても、おやすみ前、お出かけ前には火の元を再確認するなど、火の用心に細心の注意を払っていただき、また、救急車の適正利用にもご協力をお願いします。

住宅用火災警報器は定期的な作動確認とお手入れが必要です。

定期的に作動確認をしましょう。

住宅用火災警報器は電池が切れると作動しなくなります。

汚れていたらお手入れをしましょう。

警報器はホコリなどが付くと誤作動する場合があります。

発行日　平成 31 年 2 月 25 日

発行者　横須賀危険物安全協会　会長　八巻　敏博

〒238-8550　横須賀市小川町 11 番地

電話　046（821）6476